

インターバンクの声（2017年2月27日）

週末のニューヨーク市場の終盤、円相場は2週間ぶりに112円台を割り込んでしまった。米10年債利回りが2.30%割れ寸前まで低下し、ニューヨーク原油価格が一時、53ドル台に下落していたことも響いたが、米国株価が終盤近くまで低調だったことも強く影響した。

当初期待されていた28日のトランプ大統領の議会演説だったが、ムニューチン米財務長官が前日のテレビインタビューで、8月に議会が休会に入る前までに税制改革を行う考えを示したことで、大統領から具体的な経済対策の発表があるかどうかもはっきりしなくなった。

市場参加者も2月7日から9日にドルが111円台中盤近くまで下げていた水準を割り込んでしまうと、次の目立つサポートが105円手前までないことは分かっており、111円台ではドル売りに慎重になっていることが僅かな救いだ。

月末の日本勢からのドル買い需要がどれだけあるかは不透明だが、多少ドルが反発したとしても、このところ米経済指標が低調気味なこともあり、今週数多く予定されている指標結果次第ではもう少しドル売り・円買いが進むかもしれない。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。